

が展開している。こうした様々な生活場面は、小さなツールや机を移動して切り替えられている。

一見その形態が異なるゲルとバイシンだが、室内の図式は非常に似ている。ゲルでは風除室となる玄関に入り、中央に光が落ちてきて、そこを中心に空間が分割され、右手に調理の場所、左手から座る場所を兼ねた低い寝台が並び、最奥がヒエラルキーが最も高い場所で、主人の席や仏壇が置かれる。バイシンは南側に開口部があり、天井は低く抑えるが、多くは入口が東南側に配置され、入ると右手に調理場、入口から対角線状の奥にテレビ台や仏壇が置かれていて、ゲルと同様の感覚でつくられていることがわかる。

どの家もかなり広い敷地を持っているが、利用されている土地はほんの僅かである。調査された範囲では、平均敷地面積は約500㎡、建蔽率は12%程度だった。土地利用があまりされない理由として、乾燥気候で一度土を掘り返すと草が再生しづらいため、大地を尊重する意識が根強く、元々土地を加工するという概念がないことが考えられる。例外的に、日本での生活経験を持つ人や土を掘る技術を知っている人々は植樹、菜園、楽しみのための庭などの土地加工を行っている。このように余裕ある敷地を利用する住民は少しずつ増えており、定住生活が長くなる中で、土地の緑化や自宅での野菜づくりなどの活動が増えていくことが予想されていた。

高い柵で囲われた敷地外への意識は薄く、コミュニティ意識も日本人とは全く感覚が異なるという。住区ごとに地区長はいるものの、多くは比較的希薄な関係性とのことである。ただし国際援助により道路改善を行うことで道路への意識が高まるなど、柵外への気づ

きが増えていくことで、ゲル地区はより住みやすい地区となる可能性も指摘された。

最後に、ゲルとは対極に位置づけられる社会主義時代のアパートの住まいについて直近の調査内容が共有された。社会主義時代のアパートは年代ごとにデザイン・構法が変遷しているほか、平面図からは明らかにモンゴルの間取りが見てとれる。ゲル地区での調査で見られた家族共有の場所を繋げる使い方とは反対に、アパートの間取りは完全に独立した部屋同士を扉で仕切り、それらを廊下で繋ぐ構成である。モンゴルの人々が好む家の使い方とは異なるため、扉やキッチンの変更がよく見られるという。例えば個室、子供部屋、寝室だけは扉がつけられるが、廊下、ホール、キッチン、トムウローなどの家族共用のスペースはできるだけ扉をなくし、大きく開口部を広げて使われているケースが多い。また、ゲルではキッチンと食事の場は同じ場所にあるため、アパートで離れている場合には違和感が感じられたのか、キッチンの位置を強引に変更している例もあった。

以上の講演内容を踏まえ、質疑応答が行われた。質問では、定住生活でゲルを使わなくなった理由、ゲルの一般的な配置原則について、高い柵で囲われた住まいの外部・内部の感覚、世代交代が起こってもゲルが使われ続けるという見通し、社会主義時代のアパートのメンテナンス状況について問われたほか、ゲル・バイシンの平面プランの他地域との類似性・関係性等についても活発な意見交換がなされた。

今回の講演を通じて、遊牧の伝統を持つ人々の住まい方から、アジアにおける多様な「定住」の価値観について理解を深める大変有意義な機会となった。

2022年度 アジア研究センター活動報告 2022年10月～2023年3月

※講演者・出張者等の肩書は当該活動当時

シンポジウム

●アジア研究センター主催

日時：2023年1月17日(火)

テーマ：「アジアとアメリカ帝国のはざまを生きる人々の物語り」

“Lived Stories at the Crossroads of Asia and the American Empire”

講演

山里 絹子氏 (琉球大学国際地域創造学部 准教授)

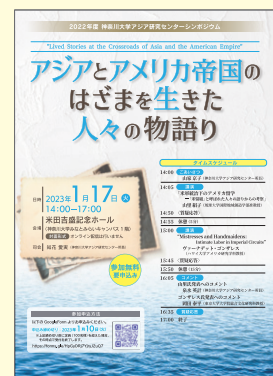
ヴァーナデット・ゴンザレス氏 (ハワイ大学アメリカ研究学科 教授)

コメント

泉水 英計 (所員 本学経営学部教授)

岡田 泰平氏 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

質疑応答



共同研究グループ主催による公開研究会

- 研究グループ：「アジアの政治発展」
日 時：2023年3月24日(金)
テーマ：「南西諸島の軍事要塞化の現状とその意味」
報告者：川端 俊一氏(ジャーナリスト)
- 研究グループ：「アジアの国際ビジネス環境」
日 時：2022年12月3日(土)
テーマ：「人口動態からみた今後のアジア」
報告者：大泉 啓一郎氏(亜細亜大学アジア研究所 教授)

共同研究グループ主催による公開講演会

- 研究グループ：「アジアの社会遺産と地域再生手法」
日 時：2023年2月28日(火)
テーマ：「近現代モンゴル：ウランバートルにおける定住と都市」
講演者：八尾 廣氏
(東京工芸大学工学部建築学系建築コース 教授)

共同研究グループによる出張

- 研究グループ：「アジアの政治発展」
《国内》
出張者：村井 寛志(所員 本学外国語学部教授)
出張先：後藤新平記念館 他(岩手県、宮城県)
日 程：2023年3月29日(水)～3月31日(金)
目 的：日中関係や台湾統治に関わる政治家の記念館の資料保存・展示状況等の調査のため
- 研究グループ：「アジアの国際ビジネス環境」
《国内》
出張者：田中 則仁(所員 本学経営学部教授)
出張先：公益財団法人岡山県産業振興財団 他(岡山県)
日 程：2022年10月2日(日)～10月4日(火)
目 的：岡山県地域の地場産業とアジアビジネスの訪問調査
- 《国外》
出張者：田中 則仁(所員 本学経営学部教授)
出張先：ジェットロ・シンガポール事務所(シンガポール)
日 程：2023年2月1日(水)～2月5日(日)
目 的：シンガポール進出企業への訪問調査
- 出張者：魚住 和宏(客員研究員 本学経済学部非常勤講師)
出張先：タイ味の素社(タイ)
日 程：2023年3月6日(月)～3月9日(木)
目 的：日本企業の海外拠点におけるサプライチェーンマネジメントの研究のため
- 研究グループ：「アジアの社会遺産と地域再生手法」
《国外》
出張者：鄭 一止
(客員研究員 熊本県立大学環境共生学部准教授)
出張先：台北市信義エリアおよび台北駅前エリア(台湾)
日 程：2023年2月22日(水)～2月24日(金)

目 的：コロナ禍の中の台北における都市政策の動向に関する調査

- 研究グループ：「アジア地域の災害軽減化と防災・減災ネットワーク構築に関する研究」

《国内》
出張者：朱牟田 善治(所員 本学建築学部教授)
荏本 孝久(客員研究員 本学名誉教授)
佐藤 孝治(客員研究員 本学名誉教授)
出張先：静岡県駿河湾沿岸地域(静岡県)
日 程：2023年3月4日(土)～3月5日(日)
目 的：静岡県駿河湾沿岸地域の津波防災対策の調査

《国外》
出張者：荏本 孝久(客員研究員 本学名誉教授)
佐藤 孝治(客員研究員 本学名誉教授)
落合 努(研究分担者 本学建築学部特別助手)
出張先：フィリピン地震・火山研究所(フィリピン)
日 程：2022年12月4日(日)～12月8日(木)
目 的：フィリピンの防災対策およびアブラ地震(M7.0)の被害調査

- 研究グループ：「アジアのデザインに見る文化の性質」

《国内》
出張者：阿部 克彦(所員 本学経営学部准教授)
出張先：MIHO MUSEUM 他(滋賀県)
日 程：2022年11月29日(火)～11月30日(水)
目 的：MIHO MUSEUM 特別展観覧のため

出張者：松本 和也(所員 本学国際日本学部教授)
出張先：京都市京セラ美術館(京都府)
日 程：2022年12月20日(火)～12月21日(水)
目 的：近代文化関連資料の閲覧・調査

出張者：角山 朋子(研究分担者 本学国際日本学部准教授)
出張先：下関市立美術館(山口県)
日 程：2023年1月26日(木)～1月27日(金)
目 的：特別展観覧のため

出張者：中林 広一(所員 本学国際日本学部准教授)
出張先：大阪浮世絵美術館、大阪中之島美術館(大阪府)
日 程：2023年3月8日(水)～3月9日(木)
目 的：名所絵の実見

出張者：松浦 智子(研究分担者 本学外国語学部准教授)
出張先：海の見える杜美術館 他(広島県)
日 程：2023年3月16日(木)～3月18日(土)
目 的：海の見える杜美術館にて展示される中国近世の年画類の調査のため

出張者：阿部 克彦(所員 本学経営学部准教授)
出張先：藤田美術館 他(京都府、大阪府)
日 程：2023年3月26日(日)～3月27日(月)
目 的：藤田美術館企画展観覧調査のため

※講演者・出張者等の肩書は当該活動当時

【表紙写真】200年以上前のスペイン統治時代に建造された歴史的なタユム教会(Tayum Church, 正式名 St. Catherine of Alexandria Church)の聖堂内部の地震被害
【撮影地】フィリピンアブラ州タユム市 【撮影者】佐藤 孝治(客員研究員 本学名誉教授)